

「諍い」から探る「共生」の方途

第2回：国際政治——諍いの歴史と共生の模索

佐々木雄太

<概要>

国際政治は「諍い（戦争）」と「共生（平和）」の歴史。

とくに 20 世紀は、二つの世界戦争と冷戦および無数の「戦争とみなされない戦争」に見舞われ、「一億人の非業の死」を伴った「世界戦争の時代」。

この 20 世紀の国際政治史に即して「諍い」の原因を考え、「共生」の条件を模索する。

<推薦図書>



《問題への入り口》

- レマルク.『西部戦線異状なし』. 秦豊吉訳. 新潮文庫. 1955 年. 請求記号：080/384A/5
——「いったいどうして僕たちはこの戦場にいるの？」自らの戦場体験に基づいて第一次世界大戦の本質を問う、不朽の文学。

- A・J・P・テイラー.『目で見える戦史—第二次世界大戦』. 古藤晃訳. 新評社. 1981 年.
——オックスフォードの歴史家による第二次世界大戦史。豊富な写真と図版を用い、大戦の全貌を語る。

- 加藤陽子.『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』. 朝日出版社. 2009 年. 請求記号：210.6/Ka86
——日清戦争から太平洋戦争へと至る日本近現代史を、じつに分かりやすく語った名著。

- アルンダティ・ロイ.『帝国を壊すために—戦争と正義をめぐるエッセイ—』. 岩波新書.
2003 年. 請求記号：080/852/19B
——しなやかな文体で、アフガニスタン、イラク、そしてインドにおける宗教対立をめぐる暴力と偽善を告発する、インド人女性作家のエッセイ集。

- 伊藤芳明.『ボスニアで起きたこと—「民族浄化」の現場から—』. 岩波書店. 1996 年.
請求記号：316//634
——ボスニア北部の町で長期取材し、「民族浄化」の実態を伝える、ジャーナリストの衝撃的なルポ。

- 木畑洋一編著.『20 世紀の戦争とは何であったか』. 大月書店. 2004 年. 請求記号：209.7/Se73/2
——人類は戦争を通して何を経験してきたか、戦争は社会にどのような変化をもたらしたかを広く考察する、歴史学研究者共同執筆の書。

《さらに考察を深める人のために》



- ニール・ファーガソン、『憎悪の世紀』上・下。仙名紀訳。早川書房。2007年。
請求記号：上 → 209.7/Z5/1, 下 → 209.7/Z5/2
——第一次世界大戦から今日に至る 20 世紀の様々な大量殺戮の実態と、世界が大量殺戮に向かった状況をつぶさに描く、ハーバード大学気鋭の歴史学者の書。
- 木畑洋一、『第二次世界大戦—現代世界への転換点』。吉川恒文堂。2001年。請求記号:209//483
——現代世界の転換点としての第二次世界大戦の意義を、歴史的・理論的に整理した好著。
- J・L・ガディス、『冷戦—その歴史と問題点—』。河合秀和・鈴木健人訳。彩流社。2007年。
——冷戦時代を「長い平和の時代」と論じたアメリカの歴史家による冷戦の歴史的総括の書。
- O・A・ウェスタッド、『グローバル冷戦史—第三世界への介入と現代世界の形成—』。
佐々木雄太監訳。名古屋大学出版会。2010年。請求記号：319.02/W62
——冷戦後期における、米、ソ両国による第三世界へ介入と、これに伴う発展途上諸国の困難と混乱を明らかにする。
- デービッド・ハルバースタム、『静かなる戦争—アメリカの栄光と挫折—』上・下。
小倉慶郎他訳。PHP。2003年。
——著名な米国ジャーナリストによるアメリカ対外政策史。クリントンからブッシュ Jr に至る諸政権の外交と戦争の歴史とその論理を明らかにする。
- ジョン・ブロック／ハーヴェイ・モリス、『サダムの戦争』鈴木主税訳。草思社。1991年。
請求記号：319.28/B88
- ボブ・ウッドワード、『ブッシュの戦争』。伏見威蕃訳。日本経済新聞社。2003年。
請求記号：392.53/W86
——上記 2 点は、いずれも一流のジャーナリストが追跡した二つの戦争（湾岸戦争、アフガニスタン戦争）の起源。「誰が、何故戦争を起こすのか」を考える手掛り。
- 月村太郎、『ユーゴ内戦—政治リーダーと民族主義』。東大出版会。2006年。請求記号:239//162
——ユーゴスラヴィアの内戦はどのように起きたのか。「共生」の枠組みから「民族主義」の対立に至る政治過程を、政治リーダーの役割に着目して考察した研究書。
- 大澤真幸、『ナショナリズムの由来』。講談社。2007年。請求記号：311//1091
——近現代の紛争や戦争の要因とされるナショナリズムに関する、社会学者による包括的な研究書。

*** 近刊予告**

- 佐々木雄太、『国際政治史—世界戦争の時代から 21 世紀へ—』。名古屋大学出版会。